

2021年度 流域圏担い手づくり事例集について

'21.11.6 豊田市矢作川研究所 洲崎燈子

【これまでの事例集づくりについて】

山部会は2012年、流域の山の問題を「人と山村の問題」と「森林の問題」に分けて整理した。水源の森づくりを担う山村で過疎化と少子高齢化が進んでいるのが、「人と山村の問題」である。中山間地の活性化を進め、これらの問題を解決に導く糸口として、持続可能な流域作りに関わる102団体に取材を行い、2013

～2016年度にかけて4冊の「山村再生担い手作り事例集」を、2017～2018年度にかけて2冊の「流域圏担い手づくり事例集」を作成した。また、2017～19年度には1年に1回、事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして「事例集交流会」を開催した。

事例集のあゆみ

発行年度	タイトル	調査団体数	備考
2013 (H25) 年度	山村再生担い手づくり事例集	21 団体 (山: 21)	
2014 (H26) 年度	山村再生担い手づくり事例集Ⅱ	21 団体 (山: 17、川: 2、海: 2)	川・海の活動団体を取材先に加える
2015 (H27) 年度	山村再生担い手づくり事例集Ⅲ	22 団体 (山: 18、川: 2、海: 2)	
2016 (H28) 年度	山村再生担い手づくり事例集 その後いかがお過ごしですか? プロジェクト	17 団体 (山: 17)	2013 年度の取材先を再取材
2017 (H29) 年度	流域圏担い手づくり事例集	19 団体 (山: 12、川: 6、海: 1)	山村再生担い手づくり事例集交流会開催 (於・根羽村、2017.4.15) 冊子名を流域圏担い手づくり事例集に移行
2018 (H30) 年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅱ	19 団体 (山: 11、川: 7、海: 1)	流域圏担い手づくり事例集交流会 2018 開催 (於・佐久島、2018.4.14)
2019 (R1) 年度	(担い手づくり事例集のふりかえり)	—	流域圏担い手づくり事例集交流会 2019 開催 (於・岡崎市、2019.6.22)

2019～20年度は事例集に関する作業を休止し、流域圏懇談会10年誌を作成。これまでの事例集づくりの成果を振り返るとともに、懇談会のキーパーソン19人に事例集形式で取材を行い、レポートにまとめ掲載した。

【2021年度の活動案】

流域圏担い手づくり事例集の作成を再開する。

10年誌づくりの過程で、流域の課題を解決するためには、もっと都市住民を巻き込むことが必要という認識が共有された。その先進事例を対象として取材を行い、レポートを作成する。

これまでと取材の形式を変え、取材対象のプロジェクトに関わる複数のメンバーに取材し、プロジェクトの全体像を立体的に浮かび上がらせることをめざす。

*取材対象者

「森と子ども未来会議」

通常プレハブで建てられる学童保育の建物を、地域産木材で建築している。同団体の活動のテーマは下記の4項目。

- ①学童保育の生活環境の改善
- ②木のぬくもりを身近に感じ、自然との調和や持続的発展の大切さを学ぶ
- ③地域社会に貢献する
- ④日本の森を守り育む

森林と都市の子どもの居場所がつながる



額田木の駅プロジェクトの土場（HPより）



名古屋市昭和区にある「山里学童クラブ」。愛知県の木材を活用して建築された学童保育所第1号（額田木の駅プロジェクトHPより）



名古屋市緑区にある「あおぞら学童保育クラブ」。額田の木材を活用して建築された（写真提供：唐澤晋平）



（流域圏懇談会10年誌p133より転載）

取材対象者

鈴木建一さん（森と子ども未来会議）、東海林修さん（東海林建設設計事務所）、
唐澤晋平さん（奏林舎）、学童保育を利用する児童の保護者（ほか）

*スケジュール案

2021年11月 取材者の募集

鈴木建一氏に取材 → 他の取材対象者確定

編集会議開催 レポート完成イメージの確定

12月 取材者 × 取材対象者のマッチング

2022年 1月 取材

2月 レポート作成

編集会議

3月 レポート完成